

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 もみじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和2年12月4日), 評価結果市町村受理日 (令和3年2月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年1月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 with various service metrics and evaluation results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員としての自覚をもっている。理念は全ての職員が理解しており、その実現に向け日々のケアにあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で町内会の行事などには参加できなかったが、町内会の一員としての自覚をもち日頃から挨拶を交わし合うなど地域に根差す努力を行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で地域の方々や近隣の学校での認知症講師など連年通りできないが、電話やメールなどで連絡をとりあつてつながりは作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響で地域の方たちを招いての運営推進会議を開催することはできない状況だが、ホームの今の取り組み状況を議事録で送付したり、各関係者へ電話し意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナの影響に伴い、市町村関係者の来設もできない状況だが、都度連絡を取り合い情報共有をしている。市の方からわざわざ消毒液やマスクを持ってきてくれるなど協力関係が保っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関してはご家族の理解を得ている。身体拘束に関してはそれについての外部研修および内部研修を受けており、全職員はなにが虐待に繋がるかを理解できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてはそれを学ぶ内部研修があり、全職員がもれなく受講する機会がある。日々のケアの中でも虐待に繋がらないよう職員同士で話し合いを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や後見人と保佐人の違いなど学ぶ機会がある。該当する入居者もいたことから、その違いについて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は管理者が行なっている。ご本人、ご家族が入居時に抱く不安や疑問点を丁寧に説明し、しっかりとご理解を頂けてから入居できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ならびにご家族の要望や意見をお聞きする働きかけを行なっている。また、それらを運営に生かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は都度お伝えしている。その内容については、管理者は合同会議で代者に報告を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の個々の家庭に事情を詳細に理解しており、勤務時間などをそれに沿った形でのシフトを組んでいる。今回の慰労金もすぐに手配、分配してくれた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響で職員個々のスキルアップのため、研修会参加の場を今年度は実施できなかったが、代替でプリント類を配布を行ない育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で同業者を懇談する機会はなかったが、電話やメールなどお互いの近況報告を行なうことでサービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安な気持ちでいることもあり、笑顔で積極的に話しかけリラックスできるよう、支援を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族に率直なご意見、疑問点をお聞きしている。意見や疑問点を言い出しやすいよう気を配っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内科・歯科・皮膚科などの協力医療機関があり、都度対応していただけてることの説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新型コロナに伴い以前と同じ生活を保つことは困難な状況だが、密を避けながら調理補助や掃除など家事への参加を促し共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で面会はできないが、電話やメール、また支払いのため来設された折に最近の様子をお伝えしている。ご家族の面会出来ないことでの不安感を和らげるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響でご親戚やご友人の訪問はできないが、ご本人からの希望があれば、すぐに取り次げる体制にはある。リモートでの対応も行い途切れないように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を隣席に配したり、またトラブルの引き金になりそうな利用者は別の席に移っていただいたり状況を見て適時行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退居された方のご家族がボランティアとして様々な協力をいただいていたが、新型コロナの影響で参加できずにいる。ただ現在も連絡はとれており良い関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新型コロナの影響で希望する場所への訪問は行えなかったが、ユニット内で希望の食事会など代替としての行事を提供して少しでも希望要望に沿った対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートでご本人の生活歴を把握し、またご本人やご家族と直接お話しすることで、必要となることを見極め介護計画をたてている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の望む生活スタイルを理解している。それを踏まえ余暇時間の利用、静養時間の提供など、ご本人の望むことを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新型コロナの影響でご家族の面会もできないため、電話やメールで最近の様子やご家族の意向をお聞きして介護計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の日々の様子、とりわけ新型コロナの影響で行動に制限がかかる現状の中での変化を記録し情報を共有しながら介護計画の見直しをけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	加齢や認知力の低下から生じる様々な課題はつど、ご家族や医療機関とも連携し適切な支援ができるよう取り組みを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で地域の方やボランティアの方々との交流もできないが、地域の一員としての自負をもち、この地域に根差していくよう努力をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新型コロナの影響で受診はリモートを活用するなど留意している。ご本人の変化を見落とすことなく、変化があった時は速やかに報告をし適切な医療を受けられるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新型コロナの影響下ではあるが、ご本人の変化を訪問看護時やまた電話で都度お知らせしている。適切な助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が体調不良で入院を余儀なくされても退院後に速やかに元の生活に戻れるよう、話し合いを行ないケアにあたっている。環境の変化からくるダメージを最小限にするよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期への取り組みについての説明は行なっている。今年2月にお一人看取りを行なったが事前にご家族と何度も面談を行ないご本人、ご家族、病院、ホームが一つのチームとして機能していた。チーム全員が満足のいく形となった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	容態の急変で緊急搬送することもあり、当日慌てないよう緊急マニュアルに沿って行動をするよう訓練を行なっている。また緊急ファイルを備えており、緊急時は持ち出しを行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナの影響で地震や火災時の避難訓練は行っていないが、職員はマニュアルに沿って訓練を受けており、とっさの時にスムーズな行動がとれるよう適宜行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関するプライバシーには特に注意を払い、他の利用者の好奇の視線にさらされないよう、さりげなく支援を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を食べたいか、どんなものが好きかなど、希望をお聞きしている。重度化している方へはご家族へ聞き取りするなど対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムを大事にしている。静養したい方へは休息を、パズルで遊びたい方へパズルを、歌を聞きたい方へはCDを、都度希望をお聞きして提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にお願いして洋服類など好きなものをご本人にお渡しし、披露して頂いている。ニッコリと笑顔になるのを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立で何を作っているのかを説明している。可能な方へは、調理補助もお願いしている。調理中の味見を男性利用者にしてもらうこともあり、コミュニケーションを取りあう関係づくりを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や献立の形態など、ご本人の状態に合わせて提供を行なっている。刻みやトロミのミキサー食、粥やお茶ゼリーなど嚥下の状態や好みも把握して提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけとセッティングを行なっている。自力では行なえない方へは介助を行なっている。歯科の協力医療機関の往診も受けており適時アドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でご本人の排泄パターンを把握して誘導をしている。重度でトイレでの排泄が出来ない方へはベッド上で対応し適時洗浄や清拭を行なうことで清潔を保持している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや納豆など腸の蠕動運動を促す食材は意識して選択している。重度化から便秘傾向の利用者へは水分を十分に摂っていただくよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけに、タイミングが合わず拒否される方もいるが、無理強いせず時間をずらしたり職員が入れ替わったり、ご家族からの希望があった等の声かけを行ない、説得ではなく同意を得て入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下が顕著な方、及び静養を希望する方へは食後の静養を提供している。ゲーム等の余暇時間で熱中しすぎてしまう方へも休息を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能と副作用を理解する努力はしている。認知症の重度化、嚥下の課題がある方へは、薬剤師に確認しながら粉碎したりトロミに混ぜ込むことで、きちんと服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル好きな方、調理を好まれる方、食器の後片づけを好まれる方、それぞれの力を発揮できる場の提供を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外出は困難な状況ではあったが降車なしのドライブを行ったりマスク着用の上、短時間の外気浴を行うなどで対応している。本格的な外出支援は安全面を確認してから実施していく予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナの影響で買い物等に出かける機会がなく、どこまで支払いができるか否か機会はなかった。今後は折をみて支払う場面を意図的に設けていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの希望は現在いない。新型コロナの影響で面会できないことから、テレビ電話を利用した面会をするなどで関係性が途切れないう対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのトイレやふろ場にはそれぞれ「トイレ」「お風呂」と明記している。温度計や湿度計、加湿器、またノロウイルス対策で次亜塩素酸の消毒薬を常設し、新型コロナ対策で定期的に換気も行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い同士、テレビの好きな方など、ご本人が安心して生活できるよう、席の配置には留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナの影響で面会がなく淋しい感じている方へは、ご家族と一緒に撮られた写真を居室に貼るなど心地よく暮らせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面から階段やトイレ、廊下に手摺がつけられている。季節の花を飾ったり催し名を提示してどんな行事があるのかをお知らせしている。		